

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0392100012
法人名	医療法人 徳政堂
事業所名	グループホーム ゆい
所在地	岩手県岩手郡岩手町江刈内6-8-9 (電話) 0195-61-1511

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通三丁目19-1		
訪問調査日	平成20年1月31日	評価確定日	3月11日

【情報提供票より】(20年 1 月 7 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,900 円	その他の経費(月額)	41,670 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		950 円	

(4)利用者の概要(1月7日)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	- 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 85 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	佐渡医院、三宅歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>医療法人、徳政堂の事業所の1つで、沼宮内駅より北へ徒歩5分、消防署の隣にある。木をふんだんに使い落ち着きと、暖かみのあるホームである。太い柱と天窓から降り注ぐ明かりが安らぎをあたえている。職員の年齢に幅があり、それぞれの話題に対応が出来、入居者と良い関係がきずかれている。近所との関係もよく、雪かきや、声掛けが、頻繁に行われており地域との交流もよくおこなわれている。職員は前向きで、信念をもち日常の介護に当たっている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>3項目について要改善の指摘であったが、いずれも改善がされていた。介護記録の閲覧については、契約書10条11項に明記。研修履歴は個々に作成されてある。地域との交流は、年2回以上計画し、地域の60件にチラシを配布し参加を要請した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が自己評価を行い、ミーティングで話し合い、事業所の自己評価としてまとめた。それぞれの問題点を個々の課題として、日々の介護に活かす努力がなされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的な運営会議では、事業所の活動と行事予定等の報告を主に進めて、メンバーからいろいろ意見・要望を聞いてサービスの向上に活かしている。特に防災対策に関しては、事業所から、避難訓練の状況や利用者の心身の状態を具体的に出して、地域の方への応援依頼をし、メンバーや地域の方からも理解してもらい、心強い協力の言葉をいただいている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ゆい便り発行でお知らせをしているほか、家族の面会も頻繁で、利用者の日々の暮らしや心身の健康状態等細やかに情報提供している。利用者の要望と家族の協力で外泊も実施したり、運営会議のメンバーとして家族会からも入っているため、事業所の活動が分かり、家族間の交流もスムーズに行われている。献立を知りたいとの要望にも献立表を届けることで即、対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>徐々にではあるが、地域との交流も深まり継続的に行われている。特に消防署、隣3件とは「ゆい」便りの配布や雪かきボランティア等自主的に関わってくれる信頼関係が築かれている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	同一法人内の他のグループホームと、同じ理念で開所時より使用している。管理者は一年目である。地域との交流、連携のとり方も前向きで、よくなされている。		本年度を目途に、地域密着型の理念を見直す予定である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時や各報告時には、理念に触れ職員間での共有を図り、利用者の介護度を良くするための努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	前回指摘項目であるが、自治会に加入し(会費納入)隣組や小学校(七夕)保育園(散歩訪問)との交流に力をいれている。雪かきをしてもらったり、野菜をいただいたりしている。地区公民館で月1回行われる「いきいきサロン」に数名参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価に対して改善シートを作成し実施をしている。職員間でも、意義の理解が浸透し、良い介護に繋がってきている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームからの経過報告、これからの予定について、意見をいただいたり、協力を要請しているが、委員の積極的な協力で、サービスの向上が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	勉強会の講師を派遣してもらったり、見学会を受け入れている。提出書類は、足を運んで届け行政とのつながりを大切にしている。特に健康福祉課には動いていただいている。行事案内の配布を依頼したが総務課でOKが出ず、管理者が60件に配布して回った。		案内等の配布には、町内会長に依頼する方法もあると思われるし、推進会議を通じて再度依頼する方法も希望したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は町内7人、隣町2人で月1回は必ず訪問してくれるので、ホームとしては心強く感じている。緊急時は電話で連絡を随時取り合っている。金銭管理をし、毎月家族への報告をし、了解を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ゆい便り発行でお知らせをしているほか、家族の面会も頻繁で、利用者の日々の暮らしや心身の健康状態等細やかに情報提供している。利用者の要望と家族の協力で外泊も実施したり、運営会議のメンバーとして家族会からも入っているの、事業所の活動が分かり、家族間の交流もスムーズに行われている。献立を知りたいとの要望にも献立表を届けることで即、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前年度は離職者が多く、入居者も家族も不安であったが、ここ1年は同じスタッフで介護に当たっており、双方共落ち着いてきている。今後も職員の異動、交代は最小限にとどめたいと努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修は3ヶ月に1回、GH協会は毎月1回、理事長の勉強会は2ヶ月に1回位ずつ行われている。希望する研修には、旅費の支給がある。インターネットからの情報や、医療機関からの資料等をマニュアルにしたり、学習会の材料に使っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県やブロックのグループホーム協会の定例会等に、必ず参加して、他のホームとの意見交換や相互交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を決定するまで、見学をしたり訪問をしたりと納得をしてもらう努力をしている。触れ合う中で本人の意向を尊重することになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話の中から想いや不安をそれとなく引き出し、(こちらの意向等を)押し付けはせず、穏やかな言葉かけや、支え合いで関係を築いている。外部評価訪問日は、節分が近いので、「豆」についてそれぞれの風習を話していた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○想いや意向の把握 一人ひとりの想いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、想いや願いを察知し、留意しながら本人の意向に近づくように努めている。対応出来ない時は説明をして納得していただくこともある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	見直し前と、後の介護計画書で確認。3ヶ月に1回のケアプランの見直しを行い、毎日の申し送り時、ミーティング(月1回及び随時)を利用し、変更時は家族に報告し意見を求め、作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	理事長(医師)が月2回往診し、チェックをしてくれる。職員に対しても諸注意を与え、より良い介護に心掛けてくれる。変化を見逃さない様に計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	車のない家族には理事長の指示で、通院の援助をしたり、家まで送ったりしている。畑の野菜を見たい要望があり、葛巻までグループホームの車で行き、野菜の収穫をしてきた。		入居者の希望で外泊をする(3~4人) お盆や正月には8名が自宅で過ごしてきた。家族の理解があり、理想的な対応である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者は佐渡医院を「かかりつけ医」にしている。普段の記録は黒字、先生の助言は青字で記入されており分かり易くなっている。精神科等の通院は家族が付き添っている。家族の都合によっては、グループホームで対応している。定期的な往診があり、良い連携が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成19年5月に看取りの指針(「医療連携体制に関する指針」)を策定し、これに沿って家族に説明し、同意を得ている。「何があっても見捨てないから」という医師の言葉と病状に応じた対応に利用者・家族・職員も安心している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	厚労省のガイドラインに添って個人情報保護やプライバシー保護を尊重している。プライバシーに関しての勉強会は、年1回行っている。		記録等の保管棚にカーテンが付いているが、玄関の正面に位置しているため、扉か置き場所の変更を提案したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望が優先であるが、グループホームとして大まかな時間帯を設けている。その中で自分の意向によって自由に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けなど自然に利用者が関わり進められていた。ほとんどの利用者は普通食で、会話をしながら楽しそうに食事をしていた。皿の位置を変えたり、お茶を勧めたり食べやすい状況を作っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日可能であるが週2～3回の利用が主である。体調の悪い時は、部分浴、清拭等で清潔保持の支援をしている。入浴を続けて拒否をする方には「明日通院だから、入りませんか。」と促して入浴に誘っている。		脱衣所のカレンダーを使い、その日の入浴者、体重等を記載し状況把握がなされていた。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントによって長年続けてきたことが出来るように支援すると共に、日常生活での様子から、やりたいことを汲み取って支援するようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、30分くらい散歩をしている。地域の方とおしゃべりしたり、またドライブしながら釣りをしたり、外食・買い物に行ったり外出の機会を多く作っている。入居者の希望を支援できる体制が作られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事務室からの見守りと感知センサー(小鳥のさえずり音)で利用者の様子を察知している。最近、入居者さんは安定していてエスケープはない。夜間は防犯上、施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、色々な状態を想定した避難訓練をしている。また最低3日分の備蓄を確保している。運営会議の中で、具体的に、利用者の心身の状態を情報提供して、協力を依頼している。		日中の色々な状況は想定されているが、夜間を想定した訓練も今後実施することを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の栄養士より年4回栄養指導を受けている。利用者個々のマイカップはどれも大きめでお茶のおかわりをしていた。昼食は全員が完食し、和やかな雰囲気であった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた木の色にマッチした壁色で、採光の仕方も工夫されており、気持ちが落ち着く。くつろぎの空間にはソファが置かれ装飾も花の写真や、利用者の作品がセンスよく飾られている。日中は居室よりホールに集まっている人が多い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	姫鏡台、衣装スタンド等と、使いなれた持込があるが、より家族の協力を頂き、持込をもう少し増やすことを考えたい。		